

つことができるよう、至誠天に通ずとの思いで励んでまいります。何卒、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



利用者の皆さんの高齢化に対応するための準備を開始します

**福島育成園
総括施設長 藤原 勇治**

福島総括施設長の辞令を拝命いたしました藤原勇治です。

平成26年度の福島育成園では、「暮らしの質」にこだわり、一年間を通じ、施設運営を心掛けてきました。

具体的には、作業以外の行事や、ささやかな外出等に力を入れ、より街で暮らすことに近い、季節を感じ、潤いのある生活が実現するよう、努力してきました。また、住環境整備の一環で各居室の照明器具をLEDに変更し、全館のエアコンを更新しました。エアコンについては、老朽化が進んでいて、一部修理を繰り返していましたが、新しい、性能も良いものを設置し、快適な環境を提供できるようになったほか、省エネ効果が期待以上となり、電力の消費についても低く抑えられるようになりました。さらに、洋式便器について、すべてに暖房便座を設置し、寒い日にも快適に排泄ができるように改善しました。館内の清掃にも力を入れ、港第二育成園の清掃チームにご協力をいただきながら、清潔な環境でお過ごしいただけるよう取り組みました。昨年度はまた、利用者の皆さんの高齢化を感じさせる場面が多く見られたため、平成26年4月より採用していただいた看護スタッフを中心に、昼食前の嚥下体操や、散歩等の取り組み、血圧や体温の計測などバイタルの定期的なチェックなどを開始し、日常的な健康管理に取り組み始めました。

これらの取り組みについては、今後さらに深刻になってくるであろう利用者の皆さんの高齢化に対する準備の一環として、また、「暮らしの質」を高めるための取り組みとして継続していきます。あわせて、特



に平成27年度以降は、エリア全体で、高齢障がい者の支援のあり方について、学習・研究を進め、必要な支援の準備を進めていきたいと思っております。また、建物のメンテナンスを進め、より快適な住環境、活動環境の整備に努めていきます。

今年度も、法人内の他施設と比較して、かなり手厚い職員の配置をいただきました。24時間365日の体制で、利用者の皆さんと利用者の皆さんの暮らしを支えるために職員、人材を十分に生かして、法人理念である、「障がいのある人が安心して心豊かにすごせるように」を実現するために、障がい者支援施設として、その役割を果たしたいと思っております。また、今年度は、港育成園から、杉本園長をエリアにお迎えし、長谷園長と3人の管理者の体制でエリア運営を行えるようになりました。より心強くなった福島エリアで、文殊の知恵を絞りながら、3本の矢を合わせてより力強く、そしてしなやかに、利用者さん主体の利用者支援に当たる福島エリアを、職員一丸となりまして作り上げたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



心地よく暮らしていただくことを目指して

**福島育成園
管理者 長谷 弥朋**

福島育成園管理者として拝命いたしました、長谷 弥朋です。

早いもので福島育成園にきて一年が過ぎました。この一年は利用者の皆さん一人ひとりが安全で安心して快適にまた心地よく過ごしていただくことが出来るよう、利用者の皆さんに寄り添うような支援を行うことを意識して取り組んでまいりました。

しかし利用者の皆さんが理解しやすく納得もしてもらいやすい伝え方や利用者の皆さんに寄り添うような関わり方を行うことで、一人ひとりにとって心地よいと感じることが出来ると思っていたのですが、それだけは足りず環境や設備などの外的な要因も大切であると感じるようになって来た一年でした。

